はなみずきだより No.4

平成 30 年 11 月 1 日（木）
武蔵野市立第四小学校
特別支援教室 拠点校校長
榛　原　紀　子
は な み ず き 教 室

担任間の連携

武蔵野市立第三小学校
校　長　　伊野　啓子

はなみずき教室の巡回指導が日常的に感じられるようになってきています。児童が第四小学校に通級に出かけていた頃と比較すると、はなみずき教室利用者が大幅に増え、本校では 20 名の児童が利用しています。

三小の職員室では、水曜日・金曜日の朝に、はなみずき教室の先生方 5 名が出勤し挨拶の声が聞こえると、すぐに学級担任から話しかけているケースが増えています。日常の学校生活で気になっている子供たちの様子をはなみずき教室の担任に早目に知らせることで、当日の指導に生かしてもらえるからです。

休み時間には、子供たちが仲間とどのように遊んでいるのかを直接見ることで、コミュニケーションのとり方についての指導に生かしてもらえます。

放課後は、はなみずき教室の先生方が、当日の指導内容や子供の様子について学級担任に伝えています。児童の学習の様子や少人数の児童とのかかわり方について詳しく知らせてもらえることで、学級担任の児童理解が大きく進むケースがあります。その結果、日常の学校生活に生かすことができ、児童への効果的な指導につながっています。

今後も、はなみずき教室と学級担任との連携を図り、互いに児童への指導効果を高めていきます。

11 月の予定

月	火	水	木	金
			1 日 保護者面談	2 日 保護者面談
5 日	6 日	7 日	8 日	9 日
12 日	13 日	14 日	15 日	16 日
19 日 四小振替休業日	20 日	21 日	22 日	23 日 勤労感謝の日
26 日	27 日	28 日	29 日	30 日

12月の予定

月	火	水	木	金
3日	4日	5日	6日	7日
10日	11日	12日	13日	14日
17日	18日 ２学期通級終了日	19日 保護者相談日	20日 保護者相談日	21日 保護者相談日
24日 振替休日	25日 終業式	26日 冬季休業日	27日	28日
31日				

1月の予定

１月　８日（火）始業式
　　９日（水）３学期通級開始（月曜振替）
　　14日（月）成人の日
　　22日（火）～２月９日（金）担任連絡会

お知らせ

保護者相談日のお知らせ

はなみずき教室では、ご希望の方を対象に保護者相談日を設けております。お子様の様子についてはなみずき教室で把握・共有しておくことがございましたら、ぜひご活用ください。ご希望の方は連絡ファイルやお電話などで、はなみずき教室教員か専門員までお知らせください。

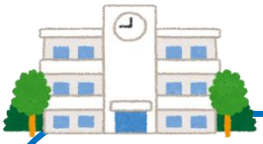
日程　：　１２月１９日（水）１５：００まで
　　２０日（木）午前中
　　２１日（金）１５：００まで
場所　：　第四小学校　はなみずき教室

ちょっと一息

「ヘルプマーク」というものをご存知ですか。最近、私もまちの中でよく見かけることが増えました。「ヘルプカード（緊急連絡先や必要な支援内容などが記載されている）」は、障害のある方などが災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲に自己の障害への理解や支援を求めるためのものです。

持っている人は「目でみてわかる障害ではないので、お願いするときに話しかけるきっかけとして助かっています」などの感想を述べています。東京都から始まり、それが全国に広がりつつあるそうです。少しずつ世の中が多種多様な困難さに対してやさしくなってきているように思います。　　『参考資料：助け合いのしるしヘルプマーク　東京都福祉保健局』

9･10月の活動報告

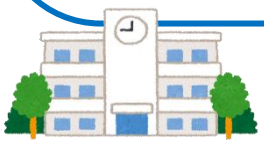


第三小学校

気持ちの折り合いをつけることは難しいことです。

小集団活動では新しい活動や苦手な活動、勝敗がつく活動があります。そのような場面では気持ちが崩れ、集団から離れてしまう児童がいます。そして、戻ってくることはなかなか難しいです。はなみずきでは『このような時にどうしたらいいか』を学んでいます。①活動に入れないことを伝えます。②できることを伝えます。選択肢から選ぶ方法もあります。（見学します、審判・アドバイザーなど他の役をしてもいいですか、別室でクールダウンしたいです…等々）③戻れるところで戻ります。特に、戻れた時にはどうして戻れたのかを聞きます。すると、「やれるかなと思った」「〇〇を10回やったら戻れた」「しょうがないと思った」など色々な理由を聞くことができます。このような経験を積むうちに、自分の折り合いのつけ方がだんだんわかってきます。始めは戻れなかったり、戻るのに時間がかかったりした児童も、戻れるようになったり、戻る時間が短くなったりしてきました。また、他の児童もお友達の折り合いのつけ方を聞いて、自分もやってみようとするのもとてもいいことです。

このようにお互いに学び合い、成長しています。



第四小学校

ある小集団では、“はなまるマーク”を使って活動の振り返りを始めました。自分自身が、「今日、何をがんばったか」を確かめるために活用します。自分ががんばったと思う活動にマークを貼って自己評価します。

はなまるマークが初めて登場した回、２年生のＡさんは自分に自信がもてないのか、マークを貼ることができませんでした。そこで登場したのが、“友達へのはなまるマーク”です。一緒に活動している友達へはなまるを貼ってあげます。自分へのはなまるは貼ることができなかったＡさんも、他の二人の友達へは貼ってあげることができました。特に、自分がいつも心配して面倒を見てあげている１年生のＢさんへ貼ってあげる時にはニコニコした表情でした。頑張っているＢさんの様子をよく見ているため、貼ってあげるのが嬉しかったのかもしれません。だからといってＢさんが気を使ってＡさんにはなまるを貼ってあげるわけではありません。その日みんなを助けてくれたＣさんにはなまるを貼りました。実際、その日は４年生のＣさんが一番活躍していたため、大人たちはあちゃあという表情。そんな低学年二人の様子をじっくり見てから４年生Ｃさんは動きました。一度はＢさんへ貼ったマークをサッと動かし、全員に平等にはなまるが行き渡るよう気を配ってくれました。その様子を見ていた大人たちは安堵と驚きの表情です。同級生との関わりが課題であるＣさんは、「小さい僕を見ているみたいだから二人の気持ちが分かるんだ。」と話していましたが、それほど優しく気遣う余裕が見られ始めたことに驚きました。

今では、すっかり自分にマークを貼ることができるようになったＡさんは、Ｃさんを手本にどんどんお兄さんになってきています。

ここからどのようなプランで、彼らの成長を在籍学級でも発揮できるようにするか考えるのが楽しみです。

大野田小学校

小集団活導では、子供たちで話し合って遊びを決める「相談」という活動をしています。今回はＤさんが司会になって話し合いを進めていきます。それぞれが意見を出し合い、「野球」か「転がしドッジボール」をすることになりました。残り時間を考え「今日は遊びは一つにしましょう。」と指示があります。多数決の結果は、大人の票を含めて「野球」が１票、「転がしドッジボール」が４票という結果になりました。いつもの流れでは、ここで「転がしドッジボール」に決定し、活動に移りますが…この日は違いました。司会のＤさんが「野球」を選んだＥさんに、「Ｅさんは転がしドッジボールでいいですか？」と聞いてあげたのです。するとそこから、三人で真剣にどうしたらいいか考え始めました。しばらくして、転がしドッジボールの意見を出したＦさんが「じゃあ半分でやったらどうかなあ。」と意見を出し、ＥさんもＤさんも「それでいこう」と、活動時間を半分にすることに。それを受けてＥさんが「ありがとう」とみんなに言って活動がスタートしました。

多数決の結果を受け入れるということも時には必要な大切なことですが、今回、今の状況から子供たちが自分たちで話し合ってみんなが納得のいく考えを出していけたこともとても大切なことだと感じました。それぞれの活動の時間は短くなってしまったかもしれませんが、子供たちは全員充実した顔で活動に取り組んでいました。

本宿小学校

３時間目の小集団活動は、５年生２人、４年生１人、１年生１人という構成です。９、10 月は「デュプリク」というボードゲームを用いて活動を行いました。１人がアートディレクターとなり、お題のカードの絵だけを見て、口頭で絵の内容を他の人に伝えます。他の人たちはその説明を聞いて自分の紙に絵を描きます。描き終わったら 10 個の評価基準を見ながら採点していきます。絵の上手さに関係なく、評価基準を満たしていれば得点となります。限られた時間の中で相手に伝わるように、言葉を選んだり、話す順序を考えたりすることが求められます。

初回の活動では、１年生Ｇくんが絵を描くことができませんでした。自分の絵に自信がなく、鉛筆が動かなくなってしまったようです。採点でＧくんの紙を見た５年生Ｈさんは、「説明を聞き取ることは難しいよね。」とコメントを添えて返していました。その活動の後、Ｇくんは個別指導の時間に難易度を下げて、絵を描く練習を行いました。２回目のデュプリクは教員が１人加わり、絵が上手でなくても説明を聞くことで点をもらうことができる人の役を演じました。この回からＧくんは絵を描き、活動に参加することができました。Ｈさんは「Ｇくんの絵、かわいいね。」と嬉しそうでした。３回目の活動では、Ｇくんはこれまでの活動で一番高い得点を取ることができました。ゲームの総合得点では負けてしまいましたが、４年生Ｉくんは「１回のゲームで見たら最高記録だよ。すごい。」と嬉しそうにＧくんに伝えていました。

自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手な児童たちも、活動の中で友達の成長を自分のことのように喜び、それを伝えることができました。小集団活動では、人と関わることで、伝えられたことの嬉しさや、伝わらなかったときのもどかしさを感じながら、経験を積んでいっています。